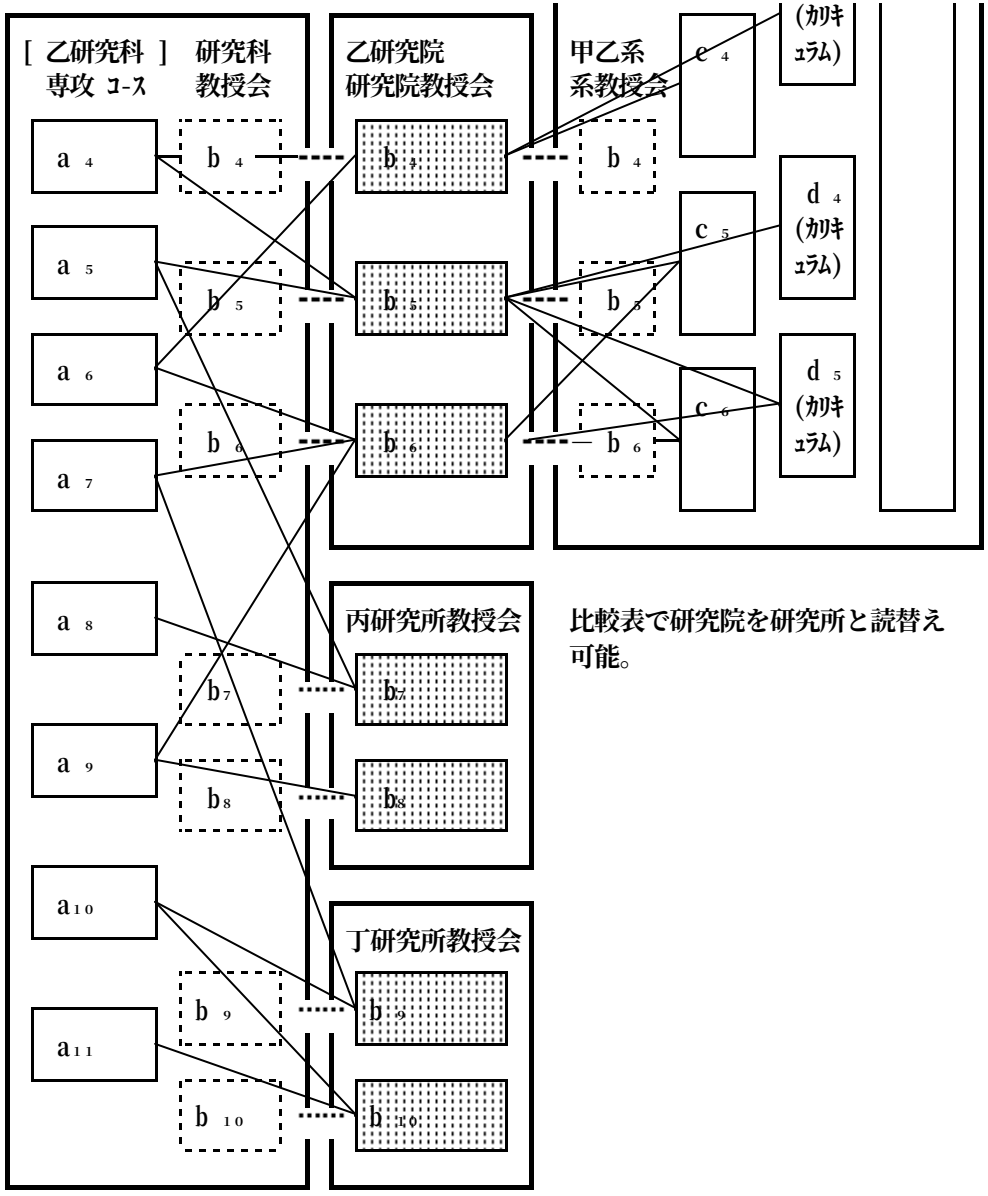
B方式－研究所のケース



比較表で研究院を研究所と読替え可能。

A方式とB方式の比較と課題

	A 方 式	B 方 式	現 行
大学院重点化方式	従来修正型= 大学院部局化（研究科内部門分離）	新型= 研究院型（研究院と研究科が対応）	―
組織 研究教育	研究科内部門（大講座） 研究科（博士）と 系（修士・学士）	研究院（部門・大講座） 研究科（博士）と 系（修士・学士）	学部 研究科 学部
教授会の種類と担当	2つの教授会 研究科教授会（人事等一般＊1 研究科教育 ） 系 教授会（系教育）	3 つの教授会 ＊4 研究院教授会（人事等一般＊5 研究科教授会（研究科教育） 系 教授会（系教育）＊6	学部教授会と研究科委員会
教授会の構成	研究科教授会 部門教官＋他の指導教官＊2 系教授会 ＊3 兼担教官全員	研究院教授会 =部門全教官 研究科教授会 =全指導教官 系教授会 ＊3 兼担教官全員	全教官

課題A ＊1 教官意識が研究及び研究科教育に傾斜、系教育軽視の危険、とくに人事→系教育重視のための特別システム不可欠(＊5＋人事) /→B方式

＊2 他指導教官参加しない場合－当該研究科教育に対する意思決定権喪失
他指導教官参加の場合－当該部門人事にも権利保有→B方式

A, B＊3 系の兼担教官(指導教官) の選出について、以下の３点配慮必要
①系教授会の安定性の確保(系担当教官は一定期間継続)
②系の管理に相応しい教官の選出（ベテラン・中堅・新人)
③教官間平等の確保(系担当のローテーション方式の確立)

＊4 カリキュラム編成に関連した教官配置について系と研究院の調整必要

＊5 教官人事に関して系教育重視のシステム不可欠(教育評価の重視、選考過程への系の関与、選考基準に教育能力査定の導入等)

B ＊6 系教授会の大規模化、３種の教授会による複雑化への対応策必要